

「美しいふるさと」をより安全で住みよい街に

まちの話題あれこれ

復光！ひよっこりひょうたん島
～ひょうたん島の灯台点灯式～

12月13日（木）、ひよっこりひょうたん島の灯台が新しいデザインで生まれ変わり、その点灯式が行われました。

灯台のデザインは昨年一般公募し、応募総数266点のなかから岩間みな子さんのデザインが採用されました。灯台の光源の部分は太陽、胴体の部分は砂時計をイメージしているとのこと。また灯台には赤浜小学校6年生の黒沢宏太君が書いた「大槌港灯台」の表札も掲げられています。

点灯式では、岩間みな子さんと黒沢宏太君が灯台の点灯スイッチを押し、無事に灯りがつくと参加者から拍手が贈られました。

約1年9ヵ月ぶりとなる灯台の点灯。その温かな光は、海の安全と大槌の復興を見守っています。



おおつち鮭帰願祭を開催

～鮭のつかみどりが復活～

12月15日（土）、北小福幸きり商店街で、震災後2度目となる鮭帰祈祭が開催されました。

福幸きり商店街の駐車場には、荒巻鮭やイクラなどの海産物や、食料品など30店舗がならび、おとずれた人を楽しませていました。

特設されたステージでは、向川原虎舞や白沢みさきさん、佐藤ひろ美さんなどが出演し、観客を魅了していました。

また、今年は、震災後初めてとなる鮭のつかみどりを開催。今年は会場内にプールを準備しました。プールの中を泳ぎ回る鮭を掴もうとする子どもたちの声会場を活気づけました。

今年は天気恵まれず、あいにくの雨でしたが多くの人々が来場し、買い物やイベントを楽しんでいました。



平成25年の年頭にあたり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災からの復旧・復興に向け、全国や世界各地の多くの皆様方から、様々な形で御支援、御協力を頂いていることに対しまして、改めて心から感謝申し上げます。

あの東日本大震災から2回目の新年を迎えます。今なお多くの方々が行方不明となっており、最愛の家族を失われた御遺族の皆様、亡くなられた方々の無念さに思いを致しますと、悲痛の念に堪えません。被災された皆様方には、心から御見舞い申し上げます。

また、町民の皆様には、応急仮設住宅で不十分な生活を余儀なくされているなど大変な御苦労をおかけしております。

さて、昨年は、町の復旧・復興のため、町内外において開催している地域別「まちづくり懇談会」において、各地域における防災集団移転促進事業、土地区画整理事業、災害公営住宅整備事業等の事業計画や事業スケジュール等について御説明申し上げ、全国から来ていただいた多くの応援職員の方々にお力添えいただきながら、町民一丸となって、復興に向けて一歩一歩、歩んで参りました。

これから、平成25年度の造成開始を進めるにあたり、詳細設計や用地確保には、より一



大槌町長 碓川 豊

層町民の皆様のお力が必要となります。

皆様の生まれ育った「美しいふるさと」をより安全で住みよい街として再生させるため、全力を尽くし取り組んで参りますので、どうかよろしくお願い致します。

また、迎えました新年、政権交代により国の政治が大きく動くこの時を機に、復興事業の制度の壁を新政権が乗り越え、被災地が望む復興の形に合わせた制度になり、復興に向けさらに大きく、力強い流れが生まれるように機会あるごとに国に要望して参ります。

結びに、本年も町政に対する御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の御健勝と、本年が希望に満ちた幸せ多い年となりますことを心からお祈り申し上げます。